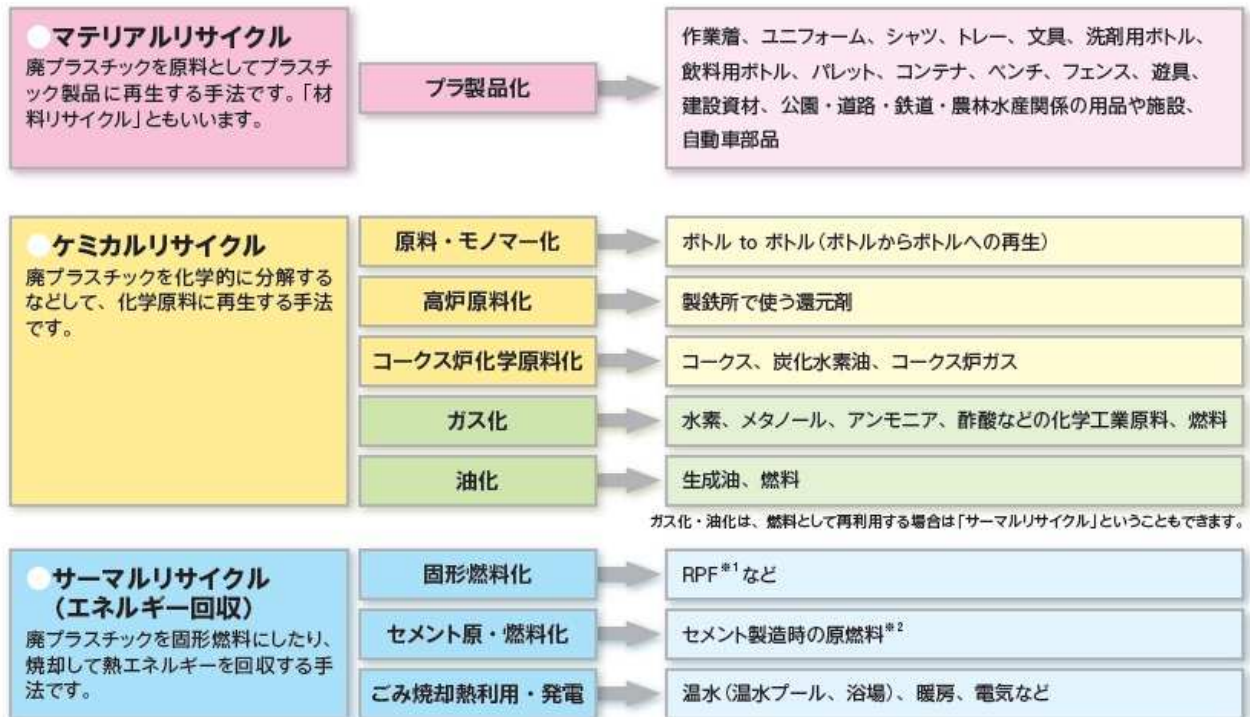


● プラスチックリサイクルの方法と環境負荷について

■ プラスチックリサイクルの手法と成果物

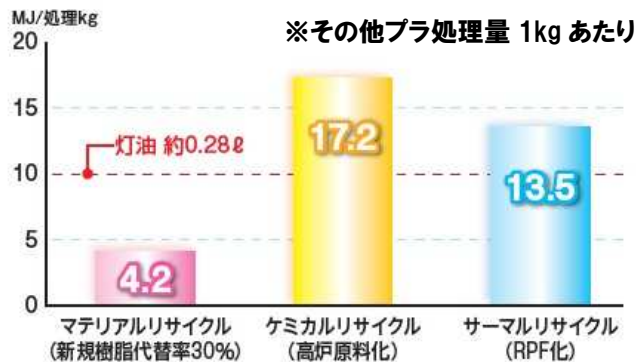


※1 RPF: マテリアルリサイクルが困難な古紙と廃プラスチック類を原料とした高カロリーの固形燃料。
 ※2 原燃料: セメントキルン(セメント製造用の回転式窯)で燃焼補助剤として使われ、燃えた後の灰はセメント原料の一部としてリサイクルされるもの。

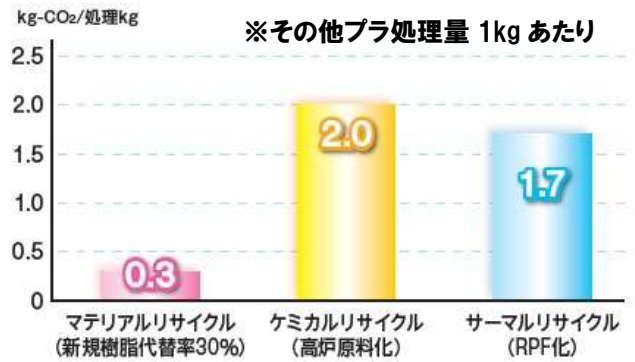
※ 冊子『プラスチックリサイクル 8 つのはてな』 P10 より抜粋

■ リサイクル手法ごとの環境負荷の削減効果

① 資源・エネルギー消費削減効果



② CO₂削減効果



※ 冊子『プラスチックリサイクル 8 つのはてな』 P18 より抜粋

● マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、サーマルリサイクルの3つの手法について、それぞれの環境負荷の削減効果の大きさを比較します。汚れや混入があっても、安定的に性能が維持される、ケミカルリサイクル、サーマルリサイクルが、マテリアルリサイクルと比較して環境負荷の削減効果が高いことがわかります。